

新 名 誉 会 員

さる5月の総会では I. L. AUERBACH, R. I. TANAKA, H. ZEMANEK の三氏を本学会名誉会員に推薦した。アウエルバッハ氏は IFIP の創立、田中博士は日米コンピュータ会議の提唱、ツェマネク教授は現職の IFIP 会長の最初の来日と三氏は本学会の国際活動の振興に多大の寄与をされたことが推薦理由である。会員の方々に三氏をご紹介するために写真と略歴を以下に掲載する。略歴は三氏の送ってこられたものとなるべく忠実に訳出した。これによってそれぞれのお人柄を幾分なりともお伝えしたかったからである。



Isaac L. AUERBACH

AUERBACH 社の創立者であり社長であるアウエルバッハ氏は電子計算機の開拓者であり、指導者である。同社は情報処理システム技術、計算機と経営管理のコンサルタント並びに出版社として国際的に著名であって、本社は米国にあり、ヨーロッパには支社がある。

アウエルバッハ氏は 1940 年代後半から計算機システムの開発にたずさわってきた。同氏は最初の商用計算機 UNIVAC の設計者の一人であり、計算機を開拓した Eckert-Mauchly 計算機会社にはその創立のときから参画した。同氏は初期の米軍プログラムシステム、例えばレーダのオンライン情報処理システム SAGE、米国の宇宙開発の基本的要素であるアトラス誘導計算機システムなどの開発の指導者であった。またパロース社の研究所の部長として8年間、同社の国防と宇宙開発に関するプロジェクトを組織し指導した。

1957 年 AUERBACH 社を創立し、現在は従業員 400 人以上までに成長した。AUERBACH Associates 社は、商業、工業と政府における計算機の利用と運営のあらゆる面に関するコンサルタントのサービスを提供している。AUERBACH 出版社は計算機に関する情報を提供するサービスを行い、とくに AUERBACH Computer Technology Reports は情報処理産業界では標準的百科辞典とみなされている。

アウエルバッハ氏は IFIP の創立者であり、また初代会長であった。IFIP は各国の情報処理学会の連合体で現在は 35 カ国が加盟している。1970 年同氏は IFIP の終身名誉会員に推薦された。UNESCO のアドバイザーとして、UNESCO 主催の最初の情報処理に関する国際学会を 1959 年にパリで開催することに尽力し、同市から貢献賞を受けた。同氏は現在国連の計算機専門委員である。同氏は National Academy of Engineering IEEE, American Association for the Advance of Science と英国情報処理学会の会員 (Fellow) である。また同氏の計算機の分野における業績に対して IEEE のフィラデルフィア支部の最初の業績賞を受けた。

アウエルバッハ氏は Drexel 大学の電気工学科の出身であり、同大学の同窓会からは情報処理の分野での業績に対し表彰を受けている。同氏はハーバード大学で応用物理を専攻し修士の学位を得た。同氏は Eta Kappa Nu と Sigma Xi 会の名誉会員である。同氏の名講演は国際的にも著名であり、また電子計算機に関する数多くの著作と特許がある。

Richard I. TANAKA

同氏はカリフォルニア大学 (Berkley) の電気工学科を優等の成績で卒業し (1950)、さらに修士号を得た (1951)。またカリフォルニア工科大学 (CIT) より電気工学と物理学の分野で博士号を得た (1958)。

1966 年より同氏はカルコンプ社 (California Computer Products) にあり、現在は同社の副社長としてグラフィックとメモリ関連製品の世界的販売と保守の責任を負っている。それ以前には同氏はグラ



フィックとメモリシステムの開発と生産担当の副社長であった。また最初にはプログラムの開発を担当した。

1957-65 年同氏はロックヒード社の電子工学研究所にあって、主任研究員として、論理設計とシステム設計に関する研究を指導した。同研究所の設立以前には論理設計部長として、システム解析と論理設計の基礎と同社におけるその実用面を指導した。

1956-57 年カリフォルニア工科大学に出席すると同時にヒューズ航空機会社の技術員として、小型ミサイルのシステム解析と工業用制御システムの設計に従事した。また 1951-55 年には North American Aviation 社にあって航空機とミサイルの誘導と制御用の計算機を試作する開拓的なプロジェクトに参加した。

田中博士には計算機に関する数多くの論文と報告があり、著書には N. S. Szabo と共著の “Residue Arithmetic and Its Applications to Computer Technology”, 1967 McGraw Hill がある。

同氏は 1962-63 年シガン大学の計算機技術に関する夏期課程の講師を務め、またカリフォルニア大学 (Berkley) の電気工学科の客員教官であった。

同氏は現在 IFIP への米国代表であり、1970 年 11 月より 3 年任期の IFIP 理事に選出された。1973 年には IFIP の次期会長に選出され、1974 年 8 月から 3 年間 IFIP 会長を務める予定である。

田中博士は AFIPS (American Federation of Information Processing Societies) の会長を 1969-71 年にかけて 2 期務めた。また 1965-69 年には AFIPS 理事、1965-69 年 AFIPS の執行委員会委員、1967-68 年 AFIPS の副会長をそれぞれ歴任した。

田中博士は 1972 年 10 月に開催された AFIPS と本学会共催の第 1 回日米コンピュータ会議の提案者であり、同会議名誉議長であった。

同氏は 1964 の FJCC (Fall Joint Computer Conference) の議長、1962 年の SJCC (Spring Joint Computer Conference) のプログラム委員長であった。

同氏は 1965-66 年 IEEE の計算機グループの議長、1962-67 年同グループの運営委員を務めた。

田中博士は IEEE の会員 (Fellow) であり、また ACM, Phi Beta Kappa, Sigma Xi, Tau Beta Pi と Eta Kappa Nu の会員である。



Heinz ZEMANEK

ツェマネク教授は 1920 年 1 月 1 日オーストリアのウィーンで誕生。

略歴：1944 年まで、ウィーン工科大学で通信理論を考究、卒業論文指導教官はシュツットガルト大学 R. Feldkeller 教授、1947-61 年ウィーン工科大学助教授、1948-49 年フランス政府奨学金によりパリに留学 (ソルボンヌ、エコールノルマル、電々公社研究所)、1950 年工学博士、博士論文の主題は時分割多重画

像伝送、1959 年ウィーン工科大学準教授、1964 年ウィーン工科大学教授、現在に至る。1952-62 年サイバネティクスとサイバネティック模型を研究。W. Meyer-Eppler 教授 (†)、Colin Cherry 教授とサイバネティクスの作業部会 European Forum Alpbach、1954 の共同議長を務める。1960-61 年 IBM のコンサルタント、1961 年 IBM ウィーン科学グループ長、1964 年 IBM ウィーン研究所長、現在に至る。1968-71 年 IFIP 副会長、1971-74 年 IFIP 会長に選出される。

主要専攻分野：情報理論、ボコーダ原理に基づく計算機音声出力、プログラム言語理論、ウィーン法として知られ、PL/I 言語の数理的定義に応用されたプログラミング言語の数理的記述法。論文数、著書 2 冊を含み 192。

受賞：1960 年 NTG 賞 (Nachrichtentechnische Gesellschaft im VDE) 1969 年 ÖVE (Österreichischer Verband für Elektrotechnik) ステファーン記念金賞、1970 年 IEEE Fellow (長老会員)、1971 年ウィルヘルム・エクスマー賞 (オーストリー貢献者賞)。

会員：NTG, 1964-68年第6専門委員会(情報処理)委員長, IFIP, 1962-69年第2専門委員会(プログラミング言語, TC-2), 委員長. Association for Symbolic Logic, Association for Computing Machinery, Société Française des Electroniciens, et Radioélectriciens, Fédération International de Cybernétique, Akademie der Künste (西ベルリン).

関心のある他の分野：オートマトンの歴史, 計算機芸術, 情報処理の哲学, 機械による音楽.

ZEMANEK 教授は 1971 年 10 月日米コンピュータ会議の折来日された. 同教授の独文の訪日印象記は清野前会長が訳され, 情報処理 (Vol. 14, No. 5) に掲載されている.

昭和 49 年 9~10 月情報処理学会研究会開催通知

研究会名	日	時	会場	備考
マン・マシン・システム	9月5日(木)	9:00~17:00	機械振興会館	前号参照
データ・ベース	9月12日(木)	14:00~17:00	同上	同上
計算機アーキテクチャ	10月1日(火)	14:00~17:00	同上	下記参照
システム性能評価	10月18日(金)	14:00~17:00	京都大学	同上
設計自動化	10月23日(水)	14:00~17:00	機械振興会館	同上

○第2回 計算機アーキテクチャ研究会 (主査：相礎秀夫, 幹事：所真理雄)

日時 10月1日(火) 午後2時~5時

会場 機械振興会館 地下3階研修1号室

〔港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線 神谷町駅・都営線大門駅下車, 国電：浜松町駅下車, バス：新橋一汐谷線東京タワー・等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, TEL. (03) 434-8211〕

議題 (1) モジュール型複合計算機 ACE

飯塚 肇, 大表良一, 藤井狷介, 石井 治, 古谷立美 (電総研)

〔概要〕 ①背景, ②設計思想, ③ACE 0.1, ④C-バスコントローラの制御方式, ⑤ACE 用マイクロアセンブラ.

(2) ACE 標準プロセッサモジュールのアーキテクチャ

飯塚 肇, 古谷立美 (電総研), 坂村 健 (慶大)

〔概要〕 ①マイクロプロセッサユニットのアーキテクチャ, ②10進演算機能の検討, ③プロセッサモジュールのアーキテクチャ.

○第2回 システム性能評価研究会 (主査：大野 豊, 代表幹事：石田晴久)

日時 10月18日(金) 午後2時~5時

会場 京都大学工学部情報工学教室

〔京都市左京区吉田本町, 国鉄京都駅より市電②系統にて京大農学部下車徒歩10分, TEL. (075) 751-2111〕

議題 (1) 京大大型計算機センターでのシステム性能評価 北川 一 (京大)

〔概要〕 京大大型計算機センターで行なってきたシステムの性能評価に関して, その考え方, 方法, 結果例などを述べる.